

氏名	岡野光博		
学位(専攻分野)	博士(医学)		
学位授与番号	博甲第 1183 号		
学位授与の日付	平成 5 年 3 月 31 日		
学位授与の要件	医学研究科外科系耳鼻咽喉科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)		
学位論文題目	Clonal analysis of human T cell responses to fractionated house dust mite antigens( <i>Dermatophagoides pteronyssinus</i> ) (ハウスダストマイト(ヤケヒョウヒダニ)の分子量分画抗原に対するヒトT細胞クローンの機能的解析)		
論文審査委員	教授 中山 睿一	教授 木村 郁郎	教授 赤木 忠厚

### 学位論文内容の要旨

ヤケヒョウヒダニ(Dp)に特異的なヒトT細胞クローンを樹立し、個々のクローンが認識するDpの分子量分画を調べ、少なくとも5つの認識パターンの存在を観察した。クラスターAは粗抗原にのみ反応するクローンである。クラスターBからクラスターDはそれぞれ45~53, 73~95, 190kD以上、の分子量分画に反応のピークを持つクローンである。クラスターEは従来*Der I*, IIと呼ばれる15~25kDの分画に反応するクローンである。得られた40株のクローンをAからEのクラスターに分類すると、最も多かったのはクラスターBの15株で、ついでクラスターC, A, Dの順で、最も少なかったのはクラスターEであった。さらに各クローンのIL-2, IL-4, IFN- $\gamma$ 産生能を検討すると、産生のパターンは全部で7種あり多様性が認められたと共に、ダニアレルギー発症に対する機能的関与が強く示唆された。最後にDpとコナヒョウヒダニ(Df)とのT細胞レベルでの交差反応性について言及した。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は、ダニアレルギー発症におけるT細胞の役割について、クローンレベルで研究し、従来血清学的に検出されたダニ抗原に対して、T細胞認識抗原は多様性に富むこと、

またIL-4, IFN- $\gamma$ の産生亢進が認められるが産生パターンは一定しないことを明らかにした。これらの知見はダニアレルギー発症機序の解明に重要な知見であり, 価値ある業績であると認める。

よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。